

第3回 寒河江市立学校のあり方検討委員会 議事録

日 時 令和2年1月27日(月) 午後3:00～

終了 午後4:50

会 場 文化センター2階 第2研修室

欠席委員 1名

1 開 会

2 教育長あいさつ

3 事務局からの説明

(1) 寒河江市立学校のあり方に関するアンケート結果について

○学校教育課長

～アンケート調査結果 No1. No2 について説明～

4 協 議

(1) 中学校の適正規模、配置について

20.30

○委員長

本日の協議は今年度分の会議集約として、中学校の適正規模、配置について方向性を検討したいということであります。ただ、これは決定ではなく、来年度になると小学校についての検討がスケジュールになっていますので、小学校と併せて考えるとまた、変化する可能性もあるかと思えます。ただ、いつまでも先延ばしできませんので、今日は、この会としての方向性をある程度定めていく、焦点化していくということで進めさせていただきます。

まずは、アンケートの説明がございましたが、質問したい点、ご意見等ありましたらお願いします。

60%を超える回答率については、かなり高い回答率と評価できるのではないのでしょうか。自由記述を見ると、当然いろんな意見が出ている。これらを踏まえて検討する必要があると思います。

前回までの意見としては、中学校についてはまず最初に2校案が出されましたが、検討するうえで1校もあるのではないかという方向性になった。前回10月3日から時間も経過していますが、その後皆さんがお考えになったこと、更には他の方々から聞いた意見も含めて、どのような方向性が正しいのか皆様からご意見をお伺いしたい。

○委員

周りにも話を聞いたりしましたが、1校案については通学という点で交通手段はどうするか等リスクがあるのではないかと思います。寒河江の場合、西川の場合とは規模が違う。1校というのは難しいと思いつつも、周りにも聞いたところ、子どもをすべて見きれのか、教員が対応できるのか、心配だという意見の保護者が何人かいた。学校の規模が大きくなるほどそういう問題は起きてくる。アンケートを見る限りだと2校案、将来的には1校になるかもしれないが、最初は1校ではないのではないかと周りの話を聞いて思いました。

○委員長

段階的な統合ということもある、という意見が多かったということでしょうね。最初から1校ではなく、最終的には1校ということもあるという意見もあったということでしょう。

○委員

アンケートの数字だけでなく、自由記述を拝見して、私も前回予算的なことを考えて、1校がいいのではないかと申し上げましたが、体育館の大きさや、例えば行事の時に子どもの姿が見える大きさであるとか、駐車場何度のことを考えると、1000名規模で1校というのはかなり厳しいのではないかと、具体的に考えることができました。

ただやはり2校にしたけど、だんだん減っていったら1校にするということはまた何十年後かになってしまうと思うし、また、すぐ10年たって子どもが少なくなったから、じゃあ1校にしようということもできないと思うので、そのあたりもちょっと、保護者の皆さんのことを考えると、2校にするとか1校にするとか、急いで決めるのはちょっと難しい気がしました。ただやはり、主役は子どもなので、と自由記述にも書いてありましたが、多すぎる中で動いてしまう子どもたち、例えば障害のある子どもたちがどのように生活していけるのかを考えると、1,000人規模の大きい学校になってしまうと先生方も大変かなということも考えました。

○委員長

統合の規模を段階的やっていくことは難しいということかと思います。委員さんは、1校にするか2校にするかすぐには決められないが統合は必要というご意見だったと思います。

○委員

今、幼稚園の子たちが8年後にこれらが行われる頃には1,000人ぐらいになると、1校なのかなと考えていましたが、アンケート結果の中で小規模な学校は小中一貫校やITに特化するとか、スーパーサイエンススクールにするとか、そういう特色のある中学校を一つあっても寒河江市として魅力のある学校ができるとすれば、小中一貫校とちょっと大きめの中学校のある2校体制を進めつつ、それに何年後かに人口が実際減っていくかもわからないが、段階的に1校になるかもしれないが、特色のある中学校と普通の中学校があってもいいのかなと思いました。

○委員長

中高一貫、小中一貫等、いろんな形の学校、コミュニティスクールなども特色ある学校の一つとなると思いますが、そういう特色のある学校と従来の学校、の2校体制ということかと思います。

○委員

感じたことを申しあげますと、矛盾しているところもあるのですが、地域では皆さん危機感を持っているのですが、それがどういう形で、統合もいずれはやむなしというところもありま

すが、そうしてしまうと今までの地域の良さというものが無くなってしまおうという心配を強く持っている方が多いと感じました。陵西中では全戸から寄付を募って、子どもたちが東北大会とか全国大会出場の際の部活動等の援助し、地域が一丸となって子どもたちを支えているという地区でもあります。こういったものが1つに統合になってしまうと、地域との一体感というものがどうになってしまうのか少し心配しているところです。個別アンケート結果の中にも、ハード整備は時間がかかるが、ソフトでの対応なら割と早くできるのではないかといった意見もありましたが、いきなりハード整備に行くのではなく、緩和措置のようなどころも必要ではないか。統合するところと、小中一貫にするところの話もありましたが、そういった考え方もあるのだなと感じたところです。もしかしたら小中一貫のところは子どもの数が減って、統合したところも子どもの数が増えることは考えにくいので、いずれまた、統合するときも、キャパ的にも受け入れられる形になってスムーズに進んでいくこともあるのかなと思いました。

○委員長

地域の方々から直接お話を聞いたということで、地域の方々の不安というのが当然あって、統合される際は必ず出てくるのかなと思います。この度の幸生小の統合については話し合いの中で、保護者の方からは早い時期に統合したほうがいいのではないかという声があったということでしたが、不安もあったのではないかと思います、そのあたりはどうでしょうか。

○教育長

保護者からも何回か話をお聞きしましたが、小さい学校であり、ていねいに育ててもらっているということを感じながらも、この集団でできないことが多すぎる。もっと大きな集団に行くともっと可能性が広がるのではないかという期待感があるのだと思います。一人一人が良く見える、確かにそのとおりで、丁寧に対応していただいている良さもあり、地域に密着しているので自然の豊かさあるいは地域の方とのかかわりでの取組ができる良さもあるが、限られた人数の中でできないことがある、もう少し大きな集団で育てたいという保護者の方の思いはあると思います。大きくなれば教員定数も増えますし、大きくなれば多様な見方も出てきます。一人の担任だけが見ているわけではなく、いろいろな先生方が見てくれるという、子どもたち一人一人を多面的に見る良さというのもあります。集団的なケアもできるだろうし、多くの人たちから多面的にみられる良さもあり、集団としてお互いを磨いていく良さもあるのかなと思います。幸生も保護者たちはそういったことに期待をして、ここまで小さくならないうちにもっと早くしてもらえなかったのかという思いも中にはあったと思います。そこに住んでいるそれぞれの立場の方からご意見をいただいてその中で合意形成を図っていく、教育委員会としては保護者の方、地域の方と何度も話をして、全員が納得することは難しいですが、合意形成に向けて根気強く話し合いを続けていって一つの結論に導くことが大事なのかなと思います。

○委員長

子ども達に多様な経験をさせていきたいというのが保護者の意見。委員の話から感じるのは、地域の良さ、今まで学校と地域の関連性の中で、保たれている地域があるのではないか。学校が統合して別のところに行くことによって、それが薄れてくるのではないかという懸念がある

のではないか。この件について委員はどうお考えか。

○委員

小国町ではこの50年で大規模な統合した小国小中学校と、叶水小中学校という小規模校が残っている。小国でも統合後にやや混乱があった。小国町は公民館がほぼない、珍しい自治体。学区単位より小さな公民館が機能してない。つまりそこでは学校が公民館に相当するものであった。学校の統合後、公民館に類似する仕組みがないということで非常に混乱した。寒河江の場合は条例上の公民館である地区公民館とその分館があり、機能の有無には差はあるが、例えば学童を引き受けていたりするなど、統合後にもしそれらの公民館や分館の仕組みが機能していくことによって、地域のアイデンティティや行事、等が保持されていく可能性は高いだろう。戸沢村も1つの小中学校になったが、旧小学校区の公民館が機能している。西川町は学校の中で、1年から6年生の間で生活科の授業や総合学習の時間などで、旧学区を全員が回って、それぞれの学区の歴史、風土、食などを学ぶという学習がすっかり定着している。それも意図的に旧学区でのまとまりのようなものであり、かつ意識させるというものである。このように統合後も公民館、分館の機能がしっかりしていれば地域アイデンティティは保持されると思われる。逆にそういう機能がないと懸念されたような状況になる。やはり旧学区での活動、例えば学校で民俗芸能などをやっていたものをどうするのか、となってきます。やはり消滅の危機を迎えているなどお聞きすることがある。学校中心にやっていた行事等、伝統行事などをどうするか、それを公民館に引き継いでいけるかどうかというところで差がついてくる。寒河江の場合は地区公民館や分館の機能がしっかりしているので、そこまで混乱はしないと思います。

○委員長

陵西学区の各地域は今あった公民館活動が非常に充実していると思いますので、学校がなくなることによって地域が消滅する懸念というのは、地域が活性化していく一つの組織として学校はあったと思いますが、仮になくなったとしても十分な活動は続けられるのではないかという感じはする。

○委員

コミュニティスクール、学校運営協議会の中に、そこに必ず地域代表を入れていくというしくみということで、広域合併した際に様々な運営等に住民の参画を保つ、それ毎に旧学区の部分の活動とかそういったことに関する意見というものを申し伝えることができますので、そういうところを必ず担保していくことによって動いていくことはできるだろうと思います。

○委員

会議の終盤で1校体制の案が出されたと同っておりますが、一番先に思ったのがコストの面、です。建設コスト、維持コストを考えれば1校体制という形を考えてもいいのかなと思いました。そうなった場合に10年後、1つの中学校にどれぐらいの人数の子どもさんが集まるのかという資料を読み返すと、900名ということだったのですが、900人という人数が多いのかどうかということを考えましたが、実際に陵南中学校で900人の時代があったわけです。

なので、決して900人が多すぎることはないのかなと思います。ただ一つ懸念としては900人の時代を経験されている先生方がどんどん退職されていき、若い先生方がこの人数で負担にならないのか、そういったことで先生方の負担をカバーできるような、先生方の悩みをカバーできるような仕組みがあれば、900人になっても支障はないのではないかと思います。先ほど話題になった地域から学校がなくなる件については、中学校に関してはある程度大規模にして、小学校をある程度思い切った統合ではなく、ある程度柔軟な対応での統合という形にして、地域から学校がなくなるという不安をカバーするというような形はどうかと思いました。また、中学校の中で不登校や学力低下の話がありますが中学校の状況を見てみると、どうしても小学校の時の基礎学力が追いつかない子なんかは中学校に行って、勉強を頑張ることをあきらめるというような傾向があるのではないかと。そう考えると小学校の1クラスの人数をちょっと減らしてしっかりと基礎学力をこの中で身に付けて、中学校は思い切った統合ということを考えてもいいのではないかと。

○委員長

委員の話にあった極小規模校など、そういう学校の子どもに対応できる教員についてはどうなのか。経験豊富な教員が少なくなって心配な面があるということですが。

○委員

小規模学級も多かったし、今の先生方にはやはり未知数なところがあるのかなと思う。陵南中は大規模校になっているが、学校の中で学年単位で動いていくシステムになってくると思う。そういう意味では対応はしていく必要はあると思う。

○委員長

複式学級がたくさんあった時代はそれを経験しないといけないと言われたが、今はそういった学校が少なくなってしまった。そういうところで教えられる先生も少なくなった。

○委員

今の先生方の状況を考えると世の中が多様化しているので、家庭や地域も考え方が多様化しているのに対応するだけの先生方の能力、資質が求められる。昔とはやはり違っている。生徒の数が多ければ多いほど先生にとっては厳しいのかなと思う。900人の1校体制になったときに先生方の指導力がかなり問われると思う。保護者も様々なことを求めるがそれに学校が機能しないということも考えられるのではないかと。

○委員長

急激に大規模になったときの対応が果たしてついていけるのか。このアンケートにもPTAについて懸念の記述があった。機能しなくなるのでは、いらぬのではないかななどの意見があったようです。そういう不安はあるようだ。

○委員

子どもは大人より適応力はずっとある。与えられた環境で子どもたちはすぐ適応する。今の学校の姿をそのまま巨大にして心配する気持ちもわかるが、学校の役割、やり方がこれからは変わってくる。1学年で全部行う学年運営という考え方、固定されたクラスが9つもあるという考え方をすると何となく重い感じがするが、そうなれば分け方もいろいろあるだろう、地域を生かした縦のつながりや教科ごとに子どもたちがいろいろな組み合わせで集まってくるやり方とか、様々なアイデアで大規模を生かすという考え方が必要。子どもたちは適応力もあるので、我々の発想力が問われるところ。

○委員

前回1校体制がいいのではないかと話した。このアンケートを見て、ここからの10年であるならば2校がベストだとは思いますが、10年後に校舎を建てて、さらに30年間校舎を使うとなった場合、次の校舎を建てるのが40年後と考えた場合、2校建てていいのかどうかというところを考えると、寒河江市の財政などを含めてコストなども考えると、次の次の学校を建てる時にもし2校だった場合、同じような意見が出て同じような話をしなければいけなくなる。まだ寒河江市だけの内容ですが、寒河江市と同規模の市や町でも、県外含めて、どこからでもこのような意見が出てきていると思う。その中で1校か2校か議論になるが、やはり10年後だけを考えるのではなく、校舎はハードですから、子どもが少なくなったら、1校にするというわけにはいかないの、40年後に次の次を建て替えることも踏まえた規模の考え方でいかないと財政的なこともあり、福祉や子育てなど別なところに負担が出てくるのではないかと。ただ、ソフトの面はアイデア次第である程度のことができると思う。例えば、何キロ圏外の子どもについてはスクールバスを運行させるとか、寒河江中学校から陵東陵南に分かれた時もそうですが、2校体制にしたいということであるなら、校舎は1校だけ、学校はその中に2校とか、考え方としてですが。お互いの交流をしながら進めていくというアイデアなどもあるのでは。ハードについては、やはり1校にして、保護者の方や子ども達、地域の方々も含めてソフト面をこの10年間、そしてその後もですが、統合した後に私たち大人が子ども達にできることをどうしていくのかというところが一番大切なのではないかと思う。アンケートを見ると保護者目線と地域目線が強すぎて、本当に20年後、30年後の子ども達への目線になっているのかという疑問に思える意見も見受けられ、そのことが少し気になってこのアンケートを見させていただいた。

○委員長

財政コスト面からのご意見でしたが、この自由記述の中で気になったのが、新しくするにせよプールなんかいないという意見があった。プールは専門のところに任せろという意見もありましたが、そのようなことは可能なのでしょうか。

○事務局（学校教育課長）

スイミングクラブ次第でしょうが。

○教育長

他市ではやっているところもある。

様々な考え方があっていいと思う。公共施設個別計画と連動させながら、社会体育とうまく連携できるような施設を総合的に考え、有効活用できるのではないかと思う。学校のあり方の検討と公共施設個別計画をうまく連動させていくと、コスト面だけではなく、市全体の生涯学習、スポーツとも連動できるのではないかと思う。

○委員

青森県の小規模自治体の事例で、新設でやる場合で、プールを作っていない事例がある。町の施設を使うという前提で。統合が前提ならば、生涯スポーツとの連携という考え方が出てくる。特にプールは維持コストがかかる割に使わない場合が多い。

○委員長

都会の方では複合型の施設の中に学校を入れていくところもある。参考までに、1000人規模の学校を新築するとなった場合、いくらぐらいかかるのか。

○事務局（学校教育課長）

概算でおそらく、7、80億ぐらいになるかと思います。

聞いた話で中山中では40から50億ぐらいと聞いているが、もし建てるとなると体育館が2つ必要になったりすることもありますし、様々な整備を含めるとそのくらいが見込まれるのではないのでしょうか。

○委員長

委員からは市の財政については学校だけではないと話がありましたが、このようなことを考えると、ハード面よりもソフト面で充実させていくというのはどうかという意見でした。

○委員長

それでは、委員から意見をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

○委員

この間の話し合いとアンケートを見させていただいて、10年後以降を考えたときに2校よりもいずれ1校になるのではという思いがあります。ただ、個人的な意見にはなるのですが、子ども達が自分の同級生に誰がいるかわかるのは中学校までだと考えています。高校になりますと、人数が多いところもありますので、私自身中学校までがおおよそ1学年に誰がいたか等認識していましたので、子どもにも同じ思いをさせてあげたいです。寒河江市に戻ってくるとき、地元の同級生の力はあると思いますので、そういった繋がりは大事だと思います。そういうことも考えられたらいいと思います。

○委員

私も10年後20年後をみたときに、寒河江市の人口がこれよりも増えていくということが

現状をみても減少しておりますし、考えられないです。陵西学区につきましても陵西中学校が令和13年には生徒数が90人になり、100人をきってしまいます。やはり100人をきってしまったときに、部活動もそうですし、子どもの選択に関しても絞られてきます。部活動も現在以上になくなっていくでしょうが、アンケートを見させていただくと陵南中学校に生徒がいる家庭等は、統合に対してあまり前向きではなかったと思います。これ以上生徒数が増えると、駐車場の確保なりいろいろと細かい問題が出てくることからなどとは思うのですが、いずれ20年後に1校で統合となることを考えると、段階的に1校を見据えた学校の2校体制というのもどうなのかと考えました。統合にはかなり費用がかかりますので、最初から1000人規模を受け入れるような校舎の設計は難しいかもしれませんが、増築を前提とした校舎を建てる等、2次計画的なもの、場所や学区の問題もありますが、2次計画ということであれば初めから2校建てるよりは、費用がかからないのではと思いました。体育館等は最初1つで、学校を統合するときに校舎と体育館を建てるといった段階的な計画はどうかと思いました。そうすると、最初は500人と500人規模ずつの2校体制でも良いと思います。そうすればある程度の理解も得られるのではないかと。

○委員長

先ほど学校教育課長からお聞きしたところによりますと、校舎改築の費用は70～80億円とのことですが、これはあくまで建築費用のみということですか。

○事務局（学校教育課長）

建築費用のみです。土地の費用は含まれておりません。造成や用地買収関係は別になります。

○委員長

さらに費用がかかるということですね。おそらく100億円近くなるのでは。

○事務局（学校教育課長）

それほど大きい規模であれば、それくらいの費用がかかると思います。

○委員長

あくまで参考までにとのことですが、段階的に2校から1校に統合していくのはどうかという意見でした。それでは、今までの意見をお聞きしながら地域代表の方々より意見をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

○委員

今日は中学校の話ということで、前回から今回の話をお聞きしておりますと、非常に経済的な話、やはり無駄な経費はできるだけ使わないということで1校統合という意見があります。私は、人口減少の中であっても、10年後20年後の人数は、寒河江市の規模であれば中学校は同規模のものが2校あって良いのではないかと思います。その2校で良い意味で競い合うといえますか、それぞれ特色を出していくかたちはどうかと。

1校だと俯瞰できそれはそれで良いのかもしれませんが、校長と教頭も1人ずつしかいないことになります。寒河江市としての教育の整合性や統治性の問題もあるとは思いますが、2校体制で管理した際に、良い意味で競い合い特色を出していくことができれば、と感想じみたものになってしまいましたと思いました。

○委員長

河北町の場合、いきなり1校に統合になり、当時は「なぜ2校にしなかったのか」と多くの意見が寄せられました。現在、生徒数が減少したため適正規模にはなったと思うのですが、果たして1校体制で良かったのかということが未だにあるかと思えます。今の委員の意見にもありましたが、学校の傍にもう1つ学校を設置し競い合うことを考えると、その場合の生徒数のバランスも必要です。

ただ、バランスの話になると、陵西中学校と陵東中学校を統合して1校、陵南中学校はそのまま存続で計2校体制となった場合バランスはとれていくのか、将来の生徒数の構成をみたときに、やはり陵南中学校の方が上回っているということが現実かと。

その場合、仮に学区を再編するということは、どの程度のリスクがありますか。

○事務局（学校教育課長）

中部小学校が寒河江小学校から分かれたときも、学区については大きな議論となったようです。私自身、学区の話我当时よく耳にした覚えがあります。実際、西根小学校・寒河江小学校・中部小学校の学区は大変複雑になっておりまして、寒河江小学校に近い児童が西根小学校に通い、その児童の隣に住む児童は寒河江小学校に通うという地区も存在しております。

中学校については、学区の混乱はないのですが、中部小学校にも見られるということで、そして、学区変更については30年以上前の中部小学校のときですが、そこから寒河江のまち中でさまざまな造成があったのにも関わらず、学区の見直しについては全くされていないというのが現状です。やはり地区の皆さんや保護者の方の意見を聞く必要がありますが、「反対されるからしない」というのではなく、子どものことを第一に考えて見直しが必要であれば、着手しなければならないと思います。

○委員長

学区を再編することに対するリスクは、非常に大きいということかと思えます。そこも、大きな要因として考えていく必要があると思えますが、委員の意見としては2校体制で互いに競い合っていくという意見でした。続いて委員、お願いします。

○委員

前回、私は初め同じように2校体制でとお話しましたが、話し合いの最後の時点では1校ということを考え、今も1校の方が良いのではと考えております。地域の方数人や校長先生とお話させていただいた際に、小学校については非常に多くの意見をいただきますが、中学校については統合が前提となっており何も意見がない状況です。私としては、1校でいきたいと考えております。8年後に構想が始まったとしても10年後に完成だと思えますが、それから10

年経つとかなり人数も減少しているかと。それを考えると、充分1校で適応可能だと思います。

その場合の施設に関してですが、例えば工業高校は生徒が多かったため、体育館は2つあり講堂もありました。吸収される側と一緒に設備を使用することにしました。公共施設があり、同じエリアにこのような施設を併設して、半分は市の公共施設として、もう半分は学校というものを作れば、体育館も皆で使うものと学校で使うものと使い分けできるかと。いろいろな面で総合的に費用がかからなくなると思います。そう考えると、20年後を見据えて10年後に学校を建てるとすると、やはり1校体制の方が良いかと思います。

小学校については、非常に問題がありますけれども、合併は仕方がないだろうと思います。当然児童数が少なすぎるという意見もありますので。

○委員長

平成13年に西川町の中学校が統合になりまして、1校になりました。統合の際は「学区から中学校がなくなるのか」といった地域の声がありました。統合を段階的に行っていくことで、理解を得て統合に前進すると思いました。ただ、そのときにどうかたちで統合を進めるのか、という話がありまして、西川町の場合東部中学校に他の中学校が統合するというかたちで西川中学校ができたわけですが、校舎はそのままです。ですので、いわば吸収合併のようになってしまったわけです。

統合の際1校体制となったとしても、果たしてどこかに吸収してしまうのか、それとも新しく別のところに建てるのかによっても、地域の方のイメージも変わってくると思います。

続いて、委員お願いします。

○委員

中学校1校案があることを今日初めて知りまして、驚きながら皆さんの意見を聞いておりました。私も委員と同じように、1回目の会議で陵西中学校の学区の子どもが減少していくことは聞いておりましたので、統合は避けられないと思い、その場合、2校体制でと考えておりました。寒河江市の中学校が1校だけだと、活力がないといいますか、良い意味で互いを意識することができるため2校の方が良いと思います。

ただ、先のことを考えるとさらに子どもの数が減少するので、皆さんが言うておりますように1校になるのかもしれないかもしれません。何度も校舎を建てるということはできませんので、見直しを持った建築の工夫が必要だと思っております。アンケート資料を事前にいただいておりましたので拝見したところ、規模が大きい学校と小さい学校それぞれに良さがあり、大きい学校のマイナス面、小さい学校のマイナス面ももちろんあります。文科省の資料にもある適正配置・適正化についてですが、教育とは何かを考えた際に、一番適正な人数の規模を想定してそこからどの程度分けて配置するのか、ということを考えていくのが理想だと思います。ただ、財政面や地域の事情等でなかなかうまくいかないのが現実問題としてあるのですが、基本は子どもに必要な環境はどういうものかというのを第一に考え、先ほどの問題とうまく調整しながら、一番近いかたちで持っていくのが最善かと思います。

そういった意味で、地域の方から実際に意見を聞いたわけではなく私個人の意見になりますが、小学校が統合するとなると保護者や地域の方が「まだ子どもが小さいから」と多くの意見

を出すと思うのですが、中学校となると段々成長して大人に近づく過程であることを考えると、中学校をある程度まとめても社会に出ていくための第一歩と考えれば、むしろ統合して教師を含むいろいろな人と関わりを持って学んだほうが良いのかと思います。先ほど委員も言っておりましたが、中学校統合に対して地区民の抵抗は多くはないのではと思います。というのも、今までに陵西中学校も陵東中学校も一度統合しております。柴橋中学校が寒河江中学校と統合して、陵南中学校にもなって中学校は統合を経験しています。

ただ、小学校に関しては、やはり地域がらみの文化等があり地域と学校の意識が強いため大変なのかと思います。まとめになりますけれども、一番は適正化を念頭に置いてそこから諸条件を組み合わせて統廃を行っていくことはどうかと。

○委員長

これで、全員の方から意見いただきましたけれども、意見をまとめると3つに分かれると思います。大きくは1校体制と2校体制、それから、2校体制でも、将来にわたって切磋琢磨していく2校案と、将来1校を見据えた上での2校案の3つです。今日の会議の命題は焦点化することですが、これまでの意見をまとめるのは至難の業です。先ほどまでの意見を聞いた上で、さらに意見ある方はいらっしゃいますか。

○委員

やはり何を大事にするかということですが、私は子どもの育つ環境だと考えています。できるだけ環境を変えずに子どもが育つということが最善だと思っていて、皆さんがおっしゃっていたように適正な規模といったときに、21～33人のように、財政面で厳しいという問題がありますが、そこを一番に考えた後に財政面というところを何とかクリアしていくことは難しい話ですが、本当に子どもが育つ環境として、どのような規模でどのような学区の編成が良いのかを、学区もかなり問題があるということで適正規模という子どもの育つ環境として、このような環境も良いといった考えを打ち出さないといけないと思います。そうでないと、いろいろな意見が出てなかなか前に進まないと思います。

もう少し踏み込むと、入間小学校は水沢小学校に統合になり、水沢小学校から現在の西川小学校になっております。寂しいという気持ちはありますけれども、地域としては仕方がないという気持ちがあります。先ほど委員長もおっしゃいましたが、自分自身も同じようなことを感じてきていて、何が良いのかを段階的でもいいからその場で考えたときに、その方が良いので水沢小学校に行った、水沢小学校も人数が少なくなってきたから西川小学校に行った、ということがありました。西川町規模だからこそできたことかもしれませんが、その時々で子どもにとって最適な環境はどうかを考えていく方が市民の皆さんに納得していただけるのではないのでしょうか。それを断行するわけではありませんが、適正規模だといって話をしていくことが重要なと思います。

○委員

アンケートでは大人の見解ばかりですが、本当のところ子ども達、小学生高学年から中学生対象になりますが、どう考えているのでしょうか。子ども達のことを第一に考えて、との意見

がありましたが、子ども達の意見も参考になるのでは。

また、適正規模という言葉が多く出ておりますけれども、果たして何に対してどういう風なかたちの適正規模なのかというところが出てこない、適正規模の話ができないのではと思います。小さい学校は小さい学校なりの適正規模という考えがありますし、大きい学校も大きい学校なりの適正規模があるかと。ですので、適正規模とは何なのかを明確にしないといけないのではと思います。

○事務局（学校教育課長）

委員以外の方からも、子ども達は実際どう思っているのかといった声はありました。大人が考えていることと子どもの意見は同じではないわけで、やはり子ども達の意見も聞かなければならないと感じております。全学年とはいかないと思いますので、小学校ですと4、5年生からになりますでしょうか。

○委員長

子ども達からの意見募集について、委員、ご意見をお願いいたします。

○委員

実際1500から2000人規模の調査になります。3年生以上ですと3、4年生で担任の先生からクレームがあり、A4の用紙裏表1枚でもホームルームの時間ではおさまらず、表だけで30分程度かかってしまうという状況です。5、6年生から中学生はクレームはなかったのでこなせているのですが、1コマ分潰れるという前提となりますので、そうすると家で書くことになるのですが、当然保護者の意見が入ってしまいますので、学校で書いてもらった方が最適かと。そのあたり協力を得ることができればと思うのですが、3、4年生にもアンケートの用紙を配布するとなると、時間がかかるだけでなく、ふりがなをふる等工夫が必要になるかと。

○事務局（学校教育課長）

学校側としては協力いただけるのか。

○委員

大事なことですので、学校側として協力はしたいと思います。

○事務局（学校教育課長）

高松小学校や白岩小学校くらいの規模であれば1クラスなので大丈夫でしょうが、寒河江小学校や中部小学校等1学年に複数クラスがある場合、1クラスだけをお願いするような形で、校長会の方と相談させていただき、実施する方向で検討させていただきたい。中学校については、お話するだけで良いでしょうか。

○委員

子ども達の判断材料がないと、「こうなった場合のメリットやデメリットは何か」「今なぜこれをするのですか」といったことをきちんと説明した上でないと、例えば同級生がこう回答しているから自分も、といったことになりかねません。判断材料をきちんと教えないと、全く意味のないアンケートになってしまいます。

○委員

このアンケートの中で、保護者の方が10年後のことについて回答できなかったように子どももできないと思います。大人がそうであれば子どもも書けないのでは。小学校5、6年生でも客観的にみる子とそうでない子では全く意見が違うのではと思います。アンケートを取ったとしてもデータになるかは難しいかと思います。

○委員

先ほどお話した、調査といいますのは実態調査であって意識調査ではありません。「家でどのくらい本を読みますか」「朝ごはんは家族と食べていますか」といった、あるかないかを聞くものですので、自分がやったかどうかについては回答が容易かと思いますが、意識調査はかなり難しいかと。

○委員長

子ども達にアンケートを実施することは、相当リスクがあります。かなり慎重に行う必要がありますので、担任の先生が話をして担任の先生が集約するかすると何とかできますが、ものすごく時間がかかります。今、実施するのは少し危険かと。

○委員

例えば、西根小学校の学級の規模で子どもが前提でアンケート用紙を作成するのであれば良いと思いますが、市内小中学校全体が対象ですよね。中部小学校と醍醐小学校では全然感覚が違うと思います。自分たちがいる環境の中で書くのであれば、作成自体とても難しいのでは。

○事務局（学校教育課長）

お話を聞いていて大変難しいことがわかりましたので、一旦この話は持ち帰らせていただきます。

○委員長

委員さん、いかがですか。

○委員

アンケートを実施して欲しいわけではなくて、あくまで子ども達はどうか考えているのかを知りたかっただけです。

○委員長

適正規模について、教育長お願いいたします。

○教育長

適正規模は文科省で言っているのは、小学校でも中学校でも、1校につき12～18学級が適正規模でありまして、1学年につき小学校では2～3学級、中学校では3～4学級ということであります。それに当てはまらない学校もちろんありますけれども、当てはまらないのでだめだと言っているのではなく、中学校については適正規模を超えている学校が多いのではないかと思います。全国的には、1校につき23、24学級くらいが多いのではないかと思います。25学級以上になると大規模校ということになります。適正規模である18学級におさまらない20～23学級が多いと思うのですが、全国で見ると1学級につき40人の23学級分だとすると920人規模になります。25学級以上になると1000人を超えますがそのような学校もあります。山形県内でみると山形第六中学校や第三中学校が600～700人程が大規模だと認識されておりますが、全国的にみると800～900人程の学校は多くあります。

そのため、何をもって適正規模とみなすかですが、大規模になると教師の目が行き届かないのではないかとということですが、山形県の場合1学級33人ですので、学級内だけで考えれば全国の1学級40名と比べると7人少ないわけですので、まだ教師の目が行き届いているかと。

また、先ほど出ました「1つの地区の中に2つ学校があった方が良い」という考えですけれども、おそらく中学校の教師からいうと、市の中で競い合うというよりも西村山管内で競い合うほうが良いのではないかとと思います。さらに言うと、県レベルの意識で競い合っている面もありますので、そういうことに関してはクリアでいるのかなと思います。1校か2校かどちらが良いのかはわかりませんが、誘導するわけでもないですが、1校体制となった場合の大規模でというケースについては全国的にありますし、市内ではなく管内での競い合いになるのであれば1校でも良いかとは思いますが。

参考までに適正規模についてお答えするのであれば、適正規模に入っていない人数の多い大規模校というものも全国的には多いということになります。

○委員長

2校体制にしたとしても、果たしてそのまま維持できるかという問題があります。先ほども話にありましたように、将来的に1校にすることとなった場合に簡単に切り替えることができるのか、先よりも今という意見もありますが、やはり私たちとしては先を見通した計画を考えていかななくてはいけないと私自身考えております。

○委員

単純な疑問ですが、巷では中学校について2校案というのが多く出ておりますけれども、例えば10年後1校になる場合に、先ほど学校教育課長からも説明ありましたが概算で70～80億円程度かかるということで、仮にこの会議の中で1校だと決まって答申を提出したときに財政面で無理だと言われ、もう一度考え直すという場合もあり得るということですか。

○事務局（学校教育課長）

あり方検討委員会の中で検討して作成した答申に基づいて、今度は教育委員会の方で方針を定めます。その方針を、パブリックコメントというかたちで、市民の皆さんからの意見を聞き調整した上で計画を立て、新しい校舎を建設すること等を盛り込んで方針を決めていくこととなります。

ただ、校舎を建てることができないという話ですけれども、今ある陵東中学校にしても築後50年を経過しており、陵南中学校も今年の春で50年ですし、陵西中学校についても約45年になります。陵東中学校と陵南中学校については、10年後まで維持すること自体が大変厳しい状況ですので、文部科学省の方では長寿命化ということで、80年使用することを推奨しております。ただ、最近建てられた施設に関しては、80年使用することを見越して設計された建物ですのでそれが可能かと思うのですが、今から50年前に建てられたものについて80年維持するというのは難しいこともあり、教育委員会としては新しく校舎を建てるということに関しても検討していかなければならないと考えております。

費用の話になりますが、学校を建設する場合、全額市の税金である自主財源で建設するわけではありません。義務教育ですので、建設主体は本来、国になるかと思うのですが、建設分について1平米あたりいくらといった基準額に基づく文部科学省からの補助もあります。学校の規模によって、2分の1等補助金が出ることとなります。そして、残りの分については起債というかたちで借金をすることができます。その借金も義務教育負債といいまして、全額を市の方で返済していくわけではなく、国から交付税というかたちで毎年歳入がありますが、その中で利息や学校建設の負担分を交付税に含めて市に後から交付するわけですので、ある程度の財政支援は受けることができます。いろいろところで学校建設がありますと、財政的な面で難しくなるということも考えられますので、どうなるかはわかりませんが100億円かかるからといって全額寒河江市が負担しなければならないということにはならないので、財政担当の者と調整しながら進める必要があると考えております。あり方検討委員会の中で考える上では、そこまで費用については考えなくても良いかと考えております。

○委員

陵東中学校にしても陵南中学校にしても老朽化が進んでいることを考慮すると、2校新たに建設した後は何年後かに最終的に1校に統合するというよりは、初めから1校にした方が財政的には良いということになると思います。

○事務局（学校教育課長）

市としましては、大変助かります。また、人数についてですが、配布資料の「児童生徒数の推移」には令和13年までの中学校の生徒数を記載しておりますが、令和10年には中学校3校の合計生徒数が969人、3年後には899人になります。昨年に寒河江市で生まれた子どもは、260人程しかいないわけで、おそらくこちらの人数が推移していくとさらに減少していくのではないかと思います。260人×3学年として合計で780人規模になる見込みです。

今、少子化対策として市の方では取り組んでおりますけれども、20年後の人口については市全体で4万人を切る目前になりますので、そこから人数的な割合を出していきますと、そんなに児童生徒数は現状維持することは難しいかと思えます。

○委員長

実際、日本そのものの人口が減少しており、想定よりも早いペースで進んでいるとのことで、今話に出ました令和13年の899人というのも最大値でありまして、この数式自体が割と平易なものですのでおそらくこの数値を下回る700人規模になるかと思えます。

費用については、国からの補助や起債等があるため全額負担ではないとの話もありました。参考までに費用の概算をお聞きしましたが、そのあたりのことを考えたときにどのような方向性に持っていくかということになります。

小学校統合については非常に厳しいとは思いますが、中学校に関しては小学校よりも学区はオープンであり、いろいろ問題があるにしても住民の理解は得られるのではと思っております。そのようなことを考えたときに、将来を見越して700人台の規模であれば2校に分けたとして350人ずつくらいになりますけれども、これは今の陵東中学校を少し下回るくらいの規模になります。以上のことを考えたときに、本当にこれから10年後に作る学校をどうあるべきかということになります。

来年、計4回会議の場があり、小学校について検討していくわけですが、まずそのたたき台として、中学校を前回に話のあった1校案に持っていったとして、そこで小学校はどうあるべきかを協議する。2校案だとすると、学区のことを先に考えなくてはいけなくなる。陵南学区をどうするのか。これが話を混乱させてしまう。仮に中学校1校案にした場合、後は小学校だけとなり考えやすくなります。ただ中学校案については修正可能だと思います。諮問期間は再来年までとなっていますので、今は1校案として方向性を考えて、そして小学校に移っていくという方向の方が良いかなと思うのですが、いかがでしょうか。

(異議なし)

それではそういう内容で本日は焦点化し、来年度に向けて小学校について検討していくという方向であればいいのではないかと思います。また今回の会議で出た話をお持ち帰りしていただき、関係各位にそれぞれ意見を出してもらい、1校案で話を出したときどうなるんだ、また意見をいただいて来年度にまた話し合いをいただけたらと思います。よろしく検討の程お願いいたします。

以上

終了